



(茨城県/春の波崎砂丘海岸 2016年2月)

3月を目の前に強い北風が吹きぬける茨城県波崎砂丘海岸。日差しは強く既に春の陽光。砂丘の風紋にも温かさが感じられます。

・・・凡人の景気判断・・・

我々凡人が、景気が「よい」（良い方にむいている）、あるいは「悪い」（悪い方に向いている）と判断するとき、どのような思考プロセスで判断しているのでしょうか？ただ著名な評論家やエコノミストの話や丸呑みにしていることもあるでしょうが、つぶさに思考をなぞってみると、素人のいい加減さにもそれなりの信憑性がありそうです。

それは、無意識な確率論的思考とも呼べそうな思考プロセスです。どういうことかということ、我々が日常ふれている情報（論理的文脈をもった情報ではなく、もっと短絡的な言葉とかキーワード等）を、肯定的意味合いをもった情報と否定的意味合いをもった情報に無意識に区別し、それらの情報を確率論的に処理して判断しているように思われます。もう少し詳しく言うと、ある事象を肯定的あるいは否定的に感じさせる定性的文脈やリアルな数字等を、雑誌・テレビ・ネット等から受け取りますが、時間的流れにそった表出数や表出頻度の相対的多寡の変化を無意識に読み取り（感じ取り）その絶対量感や変化方向で景気のよし悪しを判断しているのではないのでしょうか。当然、現在自分が働いている業界動向や会社の業績が一次的には最も景気判断に影響を与えることは当然ですが、総体としての判断としては、こんな思考プロセスを踏んでいるのではないのでしょうか？

そんなことを考えたうえで、今の世界経済を眺めてみるとどうでしょう？年明け、世界経済は、政治的・経済的視界不良から、為替・金融市場は大荒れ状態でした。資源に依存した新興国や中国経済の減速・米国の金利引き上げや中東の政治的混迷など、世界をとりまく不安要因に、臆病な過剰流動性の落とし子である投資資金はビクついているような状態でした。一方、

IMFの世界経済の年次予測は先進国に限ってはそれほど悲観的ではない。米国などは、思った以上によい指標が伝え聞こえる。中国経済減速の影響は確かに他国に影響を与えているが、その問題に対処しようとの国家の姿勢も見始めた。途上国からの資金の流出も落ち着いているようだ。資源価格もそろそろボトム？先ほど上海で開催されたG20でもそこそこのリスクの共有化が図られる等々、ここに来て、肯定的な言葉が否定的な言葉以上に、マスコミに表出しましたように思えます。ということは、中東を巡る政治的リスクや中国の経済リスクを内包しながらも、世界経済は、なだらかな上昇に向かうと期待するのですが、どうでしょう。ある事柄の文脈やキーワードの表出は、それなりの一時的・二次的な実態が投影されたものと仮定すれば、その表出の多寡の無意識な確率論的思考もそれなりの合理性があるのでは？・・・さてさてどうでしょう。

・・・資源・素材価格・・・

昨今の頃は、東証の日経平均株価が十年ぶりに、19,000円の大台にのり、自動車・電気・金融の各業界が相次ぎ大幅なベ-スアップを発表。東証1部の企業収益も円安等を背景に良好で、企業の設備投資意欲も高い状態でした。ただ、そのころ、我々のスクラップ業界では、アジア圏での資源関連受給バランスが完全に崩れ初めていました。中国の過剰生産設備から吐き出される安価な素材製品（原料）に翻弄され、価格の暴落が始まっていました。この一年間に資源リサイクルの国内市場は急速に縮小してしまっただけのようです。

今もその状態は変わらないのですが、ただ多少景色が変わってきた気配も感じます。物事の流れは大なり小なり循環的な動きがあります。中国にしても、グローバルな資本主義市場経済に身を置く以上、価格をキーとしての調整機能にそろそろ従わざるを得なくなっているのではないのでしょうか？雇用の問題から、なかなか手をつけられなかった過剰設備の廃棄が国家のもとに動き始めたようです。時間はかかると思われますが、市場は敏感に感じ取るでしょう。資源・素材価格の下方バイアスは薄れつつあると判断されます。そういう意味では、資源価格もボトムを抜け出し、多少の変動はあるもの、なだらかな価格上昇に向かうことも充分考えられます。ただ、新たな需要要因が期待できないことから、急激な改善はないでしょう。石油関連については、米国・中東・ロシア等の産出国の我慢比べが、そろそろ終局に向かい、下方バイアスは弱まるとの観測もできました。こちらもソロソロ反転をうかがっている気配を感じます。